

気。十五名用の丁度よい広さの奥の個室に案内され着席テーブルを囲む。

全員が揃い正午開会、荒木支部長のご挨拶をいただきブルゴーニュのワインが皆に注がれたところで請川さんの発声で乾杯、次々に運ばれてくる豪華な料理をいただきながら楽しい懇談に入り談笑が広がる。ワインの評判も上々。このようなところで高級フランス料理の食事の機会を持ち、ちよっ



とリッチな気分の一瞬だったのでとは思いますが。

話も弾み、ワインも重ね、料理も進むうちデザートが出る頃早や二時、池谷幹事より皆様の健康を祈り次の機会にまた元気で再会をとの閉会のご挨拶をいただき解散となり、店の入口の見事な花をバックに記念写真を撮り、お土産のケーキを手にそれぞれ家路についた。優雅な午宴会を楽しみました。(N)

辰巳会東京春の例会参加者

平成十二年十月十二日(木)
於・帝国ホテル レゼン
(五十音順・敬称略)

荒木	正雄	木村	隆昭
安東	浄田	代	ヨシコ
移川	中津	部	清也
池田	宗吉	長橋	忠男
池谷	政雄	西川	明子
今村	三郎	森	美子
請川	歌		参加者十五名

平成十二年一月二十七日

辻 本 嘉明

謹啓 寒さ厳しい日が続きますが、辰巳会のみなさまはお元気でしようか。お見舞い申し上げます。早速ですが、過日の小著発刊に際しては、大変お世話になり、有り難うございました。あたたかいお心遣いに感謝致しております。

また本日は、「たつみ」をお送り頂きまして、有り難うございました。拙稿のため大きなスペースを割いて頂いたこと、恐縮致しております。その後、小著は、大倉山の中央図書館や三宮図書館の蔵書に加えられ、係の人の言うのでは、よく読まれているようです。同図書館が発行しているPR用小冊子「KOBEB本棚」や同館のパソコンホームページで内容が紹介されたのもプラスだと思います。単行本としての書店販売では、期間の面でも制約がありますので、その制限のない文庫化について、今、出版社と交渉中です。うまくいけばいいのだが、と

思っています。

お世話のなりつばなしますが、これからもよろしくお願い致します。先ずは御礼まで 敬具

辰巳会会員便り

渡辺 勝義

拝啓 毎回辰巳会報「たつみ」をお送り下さり厚く御礼申し上げます。連絡遅れ申し訳ありませんが渡辺なからは平成七年十一月二十二日八十二才で死去いたしました。「たつみ」は編集が見事で大変立派な会報といつも感心して拝見いたしました。辰巳会の今後益々の発展をお祈りいたし取あえずお知らせまで。 敬具

二月一日

助野 敦子

立春となりました。お褒りなくお過ぎの事と存じます。今年辰年「たつみ」を祝する美しい画表紙を手にし、なんとなくほ

お 礼

二〇〇〇年六月二十日

辰巳会 会長

鈴木 治雄様

日商岩井株式会社

取締役社長

安 武 史 郎

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り誠に有難うございます。

本日、清酒二本拝受致しました。ご配慮に対し深謝致します。また先日は記念のお品を私達にまでお送り頂き、有難うございました。

本年は辰巳会結成四十周年をお迎えになられたとのこと、物故された方々の記念の法要をはじめ、いろいろお忙しかったことと拝察申し上げます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

尚、弊社に何かお役に立てることもありましたら、ご遠慮なく

お申し付け頂きますようお願い致します。

先ずは御礼まで 敬具

平成十二年六月二十一日

辰巳会

会長 鈴木 治雄様

日塩株式会社

取締役社長

鍋 島 喜 夫

謹啓 初夏の候ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、今般貴会におかれましては、創立四十周年を迎えられました由、誠にめでたく心からお祝い申し上げます。

また、この度はご丁重にも結構なお品をご恵送賜り有難うございました。

先ずは、御礼のご挨拶とともに、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。 敬具

ほえましく頁を繰り読ませて頂きました。

鈴木治雄会長のお元氣そうなお写真を拝見し、私京都のたつみ会に出席しはじめてお目にかかって以来どの位前になるのか分らず日記を年代をもどしつつみましたところ五年半前になる事が分かりました。

私もよね刀自と同じ収年で七十六才となりました。五年前とは体力気力も落ちて来ている事を感じます。

辻本嘉明様の大会講演記録を読ませて頂きました。父母と生前共に過した事がなつかしく想い出されます。父がポツポツと話した事を合せよく分る点もあり、そうであつたのかと知らなかった部分もありました。二年位前だったか忘れましたが国会中継をきいていましたら鈴木商店を語らずして日本

経済は語れないと云った国会議員があり、鈴木商店の名が出たのでびつくりして聞いていた事がございました。一般の人は知らないとい

思います。八十年も前の事ですから。西南の役から大久保利道、大隈重信が消えるその後の三井三菱の事大変興味を持ち拝読させて頂きました。

金子直吉翁につきましては、父や母から聞いて居りよく分っています。金子様の蒔いた種が今日の日商となっていると語っていました事がありました。

日本経済新聞は読んで居りません。速水優様二〇世紀日本経済人として、テレビで出ておいでになるのを聞いて居ります。政治、経済については、テレビをみるだけで生々しい事は知る事が出来ませぬ残念に思っています。これより国会中継をききます。鳩山由紀夫の質疑をききます。

辰巳会平成十年決算書が出ていましたので、心ばかりでございますが送らせて頂きます。

たつみの役員の方々によりしく「たつみ」皆様のご健康と会の発展を祈り申し上げます。

二月九日

戸谷 太通三

拝啓 貴会益々御繁栄の段衷心より慶賀申し上げます。

さて、先日は「たつみ」第六十三号御恵送賜り有難く拝受致しました。御芳志有難く御礼申し上げます。いつもながらの立派な出来栄え御編集ぶり敬服の至りです。

誌中の辻本氏の「大会講演記録」、速水氏の「わたしの道」大変感慨深く拝読致しました。また「金子直吉」では、文春文庫の城山三郎作「鼠」をなつかしく思い出しました。

余分にお送り下さった分、例により、もと太陽産業(株)の子会社勤務であった村田、室谷両氏と故山口氏夫人の三氏へお送り致しました故何卒御承知下さい。

右御礼旁々御知らせまで

敬具

平成十二年二月十日

立花 實

拝復 心温まるお便り戴き誠に有難う御座います。

亦お世話をお掛けすることと存じますが、私にはもう最後に成ると考える四十周年総会出席の勇気が出て参りました。

当日東京着七時の「のぞみ」で参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

四月二十三日

拝具

大塚 融

辰巳会四十周年記念品を賜わりまことにありがとうございます。

柳田義一さん、桂芳男さん、高畑千代さん、高畑薫幸さん、数々の方々に取材させていただき、番組・ニュースに役立たせていただきました。

小生も来年二月末で定年も迎えますので来年の総会には必ず出席したいと思っています。

金子 園花

拝復 過日はご丁寧な御便りを添え、辰巳会の四十周年の記念品と何よりの結構な品をお送りいただきまして、まことに有難う存じました。大切にに使わせていただきます。

又、五月十八日には物故者の法要までしていただきましたそうで、これ又、有難うございました。

先日から故郷土佐へ帰ってをりまして、ついつい長居をしてしまいい大そう御礼がおそくなりまして申訳ございませんでした。

どうぞ皆様いつまでも御元気でと念じ祈ります。

六月七日

かしこ

乙竹 虎三

拝復 新緑の候益々御清栄にあらせられ慶賀至極に御座います。

平素常に御高配に預り特に私は、部外から参入致しました者なるに

拘らず恐縮致して居ります。

今回は又辰巳会創立四十周年に際し御法要を取行わせられ、右記念品まで拝領有難き次第に御座います。会員皆様方々の益々の御健勝御繁栄を心から御祈り申し上げます。

右拝受のしるしまで

五月十八日

敬具

◆原稿募集

内容 随想 短歌 俳句 詩

写真 鈴木往時の思い出 近況などを

必ず原稿用紙に縦書で

四百字詰五枚程度

締切 随時

送先 神戸市中央区磯辺通

一丁目一―三九

太陽鋳工株式会社内

「たつみ」編集部宛

編集後記

新年あけましておめでとうでございます。「たつみ」第六十四号をお届け申し上げます。二十一年紀初の本号は、辰巳会創立四十周年を記念しての特集号で、増ページとなっております。

好評の速水優氏の「わたしの道」に加えて、今号では牧冬彦氏の随筆「神戸の風」を掲載させていただきました。神戸の風にふさわしい、爽やかにして滋味あるエッセーです。また、特集として、安東幹事初め皆様のご協力で、鈴木商店に纏わる記事、鈴木岩次郎・金子直吉・高畑誠一三氏の思い出話、写真等も掲載することができました。新世紀を迎え、わが国では政治・経済・教育等々の課題が山積しています。

「鈴木商店」や「辰巳会」が社会の先輩としての役目を、少しでも果せればと願っております。

編集人



物 故 者 名 簿

「たつみ63号」以降

御 芳 名	死 亡 年 月 日	享 年	鈴木時代の職歴又は現職
松 木 三 四 郎	平成11年11月	92歳	(株) 神 戸 製 鋼 所
柳 川 菊 江	平成11年11月	92歳	本 店 タ イ ピ ス ト
立 花 實	平成12年 8 月 2 日	95歳	(株) 神 戸 製 鋼 所